

【アメリカ視察報告②】

はじめに

皆さんこんにちは！ 髄膜炎で入院して7kg痩せたのですが、退院して8kg増体しました岩泉です。最近季節の変わり目だからなのか「食欲不振」の牛をよく診療しますが、僕の辞書には「食欲不振」の4文字は存在しません。

今回も7月末～8月の4日間アメリカ視察の報告を書かせて頂きます。

Jauquets Hillview Dairy

今回はJauquets Hillview Dairyさんの視察報告をさせて頂きます。

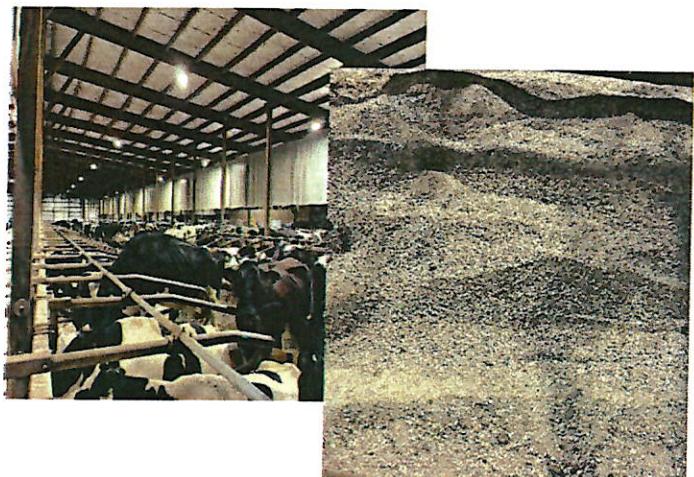
① Jauquets Hillview Dairy

- ・経産牛頭数: 700頭
- ・500ha (350: コーン)
- ・搾乳システム: 16頭パラレル
- ・平均乳量: 49kg (全群平均)
- ・搾乳回数: 3回 (DIM0～21は6回)
- ・従業員: 12人



上記が概要です。搾乳頭数700頭のところ500haと一頭当たりの畠面積が意外と少ないと驚きました。しかしながら畠の半分をデントコーンに残りはルーサンに割り振っているようで、作付けの種類・割合は根釗地区と大きく違うようです。

牛床



牛床は砂ベッドで、3ロウと2ロウが2ペンずつ、群構成は

- ① フレッシュ群 (DIM: 0～21 ベッド数に対して90%以下の頭数に)
- ② 初産群・2産以上群 (ベッド数に対して頭数160%、スタンチョン数に対しては215% !!)

となっています。驚きなのはその過密具合です。写真にもあるように牛がひしめいていましたが、1時間に1回エサ押しをしてDMIを低下させないようにしているそうです。また、フレッシュ群の頭数を厳密にコントロールすることにかなり注力されているそうで、第四胃変位の発生率は年間2%以下のことでした。

飼料管理

続いては飼料のあれこれです。



左から、①フレッシュ群②2産以上群③クロースアップ群の飼料の写真になります。

根釗地区の飼料が一番見慣れている僕にとっては「こんなにデントコーンたっぷり入れてもいいのか！」と、かなりショッキングな光景でした。

泌乳牛では全群のメニューで50%（乾物で）デントコーン、15%ルーサンを使用し、フレッシュ群は搾乳回数が多い為、バイパスリジンやメチオニン、バイパス蛋白を多く使い乳成分の低下を防いでいるそうです。

平均DMIは57ポンド（約26kg）で平均乳量49kgも頷ける食べっぷりです。



Total Herd Management Service

繁殖

続いて繁殖成績です。

・妊娠率：48% (DC305 の VWP を 78 と設定)

・平均授精回数：1.8 回

・授精戦略：初回授精はプレシンク-オブシンク、授精内容は 8 割がアンガス F1、2 割がホルスタイン性別精液

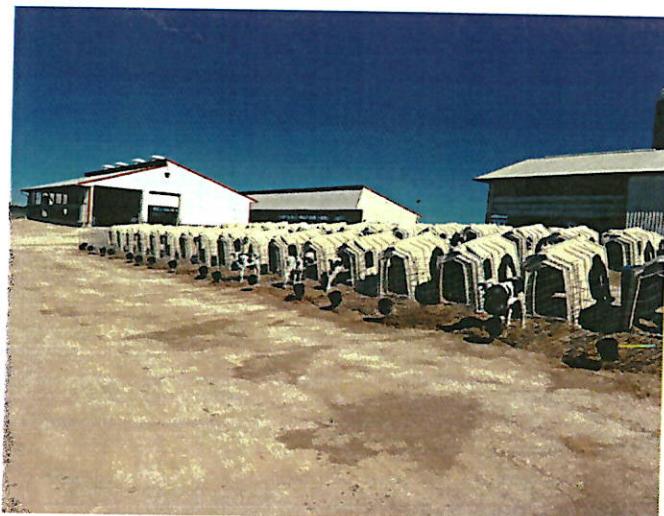
・DNB の選定：フレッシュ群にいる 21 日間で決定し、都度授精回数に応じて搾乳牛から DNB を選定

以上が繁殖戦略のまとめです。繁殖検診は 2 週間に一度提携している開業獣医師に依頼し、妊娠鑑定で空胎を確認した牛はリシンクになるように事前にホルモン処置をして繁殖検診をするという形だそうです。

圧倒的な乳量を誇る農場ですが、しっかりと繁殖成績を向上させるための戦略を練っている印象でした。

子牛の管理

最後に子牛の管理についてです。



初乳管理：生後 1 時間以内にパスチャライズ済み凍結初乳 1 ガロン (約 4.5L)

死産率：2 % 哺乳期死亡率 0% (数年に一頭)

子牛は通年で全頭外ハッチで飼育し、水はけをよくするため、地面に火山灰のようなものを敷いています。この火山灰のようなものはハッチが開いた際の消毒と合わせて隨時足していくとのことでした。雨が少ないおかげもあるかもしれません、全体的にハッチ内もよく乾いていて清潔感があります。

子牛の管理は恐らくこちらの地域の一般的なものと同じですが、感動したことが 2 つありました。

① 生後～初乳給与までの時間

② ハッチの消毒

この 2 つです。この農場では搾乳回数が多いこともあり、24 時間牧場に人がいて、子牛が生まれてから初乳を飲ませるまで、「忙しくて時間が空いてしまったとしても 2 時間以内には必ず飲ませる」とのことでした。24 時間体制はなかなか真似できませんが初乳給与に対する意識はかなり高く持ついらっしゃる印象でした。

2 つ目はハッチ・及び地面の消毒に対する意識の高さと徹底具合です。僕は出張やセミナーなどで初めてお会いする農家さんには必ず聞いていてるので今回も「ハッチの消毒はしたりするのですか？」と質問したところ、かなり驚いた様子で「何を聞いているのですか？当然ハッチの消毒は牛が入れ替わるごとに必ずやりますよ！！」と笑われてしまいました。前回紹介した子牛の預託農場さんでも同じでしたが、この地域の農家さんはワクチネーションや消毒などに対してルーティーン化している農場が多く、やって当然！という概念をお持ちの方が多そうでした。

かなり駆け足で紹介してしまいましたが、実際はもっともっとお伝えしたいこの農場のこだわりがまだまだありましたので、ご興味がある方は岩泉までご連絡ください！！



Total Herd Management Service